

令和3年度  
**印西市民アカデミーだより**  
 第10号

**印西の歴史散策9（船穂／松崎・前戸）**

9月10日(金)、旧船穂村の武西・戸神地区と谷津を挟んで東側の丘陵に広がる松崎・前戸地区を散策しました。この「船穂」という地名は、平安時代に作られた辞書「和名類聚抄(和妙抄)」の古代律令制における行政区画の部門に「船穂郷」の名称が記されている。この地域は、旧石器時代の遺跡も多数分布しており、大昔から人々が住んでいた豊かな土地であったようです。今回のコースは、船穂コミュニティセンター→船穂宗像神社→多聞院→火皇子神社→コミュニティセンター前戸の里→山ノ下庚申塚→船穂コミュニティセンター(約3.5km)です。



船穂宗像神社

印西近郷に13社ある宗像神社の惣社。この神社には、鳥居を建てると洪水になると言い伝えがあり、現在も鳥居が建てられていません。



火皇子神社

火皇子神社(ひのおうじんじゅ)の祭神は加具土命(かぐつちのみこと)。本堂の裏手には、樹齢500年を超える杉の木の手切り株があります。境内の一石百庚申塔(右端)も珍しい。



鳥居前のラベンダー畑



多聞院・毘沙門堂

創建は鎌倉時代の正応(1288~92)のころ。毘沙門堂には、仏師賢光の作といわれる木造毘沙門天及び両脇侍立像が安置されています。



前戸

センターの裏には、十九夜塔や子安観音塔が30基以上建てられていて、この地域の女人講の歴史を忍ぶことができます。



山ノ下

塚の上に建てられている庚申塔の右端が一石百庚申塔で、市内では火皇子神社のものとあわせて2基しかありません。